

# 昭和学報

昭和女子大学

〒154-8533 東京都世田谷区太子堂  
03(3411)5118  
編集発行人 鈴木 円

## 株式投資と教育

会計ファイナンス学科長 山田 隆

平成三〇年四月に「会計ファイナンス学科」がグローバルビジネス学部を設置された。私の前職はファンドマネージャーであり、約二〇年間、資産運用に携わってきた。株式を主たる投資対象とし、一〇〇〇億円に

億円という実物を一度も見たことはない。キープボードをたたいて入力したことはある。生き馬の目を抜く金融業界で勝ち残るには並大抵の精神力と体力では無理である。二〇年以上働いてようやく私は自分には向いていないと気付いた。名誉のために言っておくが、私は運用成績が悪かったわけではない。当時(平成一四年)、国内のアクテ

イブファンドは三六四本存在したが、その中で運用成績トップになったこともあるし、世界的な運用評価機関であるリッツパー社から一〇年間の運用成績で最優秀賞を受賞し、社長賞を頂いている。何を言いたいかというと、「それが上手くできるから向いているとは限らない」ということだ。仕事だから一生懸命でできるのである。よ

く新聞社からの取材も受けた。「山田さん、運用が上手くいった要因は何でしょうか?」と訊かれ、「たまたまです」と答える。記者は不思議な顔をして私を見つめる。「いや、なんかあるでしょう。必勝法などありませんか?」とくる。経済に精通していると思われる記者でもこのレベルである。ファイナンスを大学で教えていると必ず学生から訊かれ

### 会計ファイナンス学科とは?

資格取得を通じて得た知識や理論をビジネスの現場で使えるものに変える

- 特色1 実務家出身の教員が多く、理論と実務を結び付けた学びを展開
- 特色2 資格取得を通じてビジネスに必要な基礎知識を身につける
- 特色3 少人数制だから双方向に、知識と実践をバランスよく学べる

### 2つの女子大初!

- 女子大初の会計ファイナンス学科!
- 女子大初の株式仮想投資シミュレーションシステム導入!

取得をめざす資格 卒業後の進路

るのは「株で儲けられるようになりませんか?」ということがある。残念ながらいくらファイナンスを学んでも株で儲かるようにはならない。もし、株式投資の必勝法があるのであれば、それが多くの人に知れ渡った時にはもうその効果は発現しな

い。だからそのようなものはないし、あったところでもない。私が若かりし修業時代に徹底的に叩き込まれたのは、株式以外のこと、金融市場以外のことに興味を持つことである。私はその頃、年間二〇〇冊近い本を読んでいた。というより読まされていた。その多くの本が全く金融には関係ないものであった。歴史、生命科学、電気工学、心理学、哲学、物理学などなど。また、様々な新聞、雑誌、専門誌、海外の論文などもジャンルを問わずに読んだ。結局、私を助けてくれたのは「幅広い教養」であった。投資のヒントの多くはそういうところから数多く得られた。しかし、多くの人々はそのようなアプローチをしない。なるべく労働

を少なく儲けることを考える。何事も手間をかける。苦勞せずして得られるものはたかが知れている。このように考えると、私は最も「市場原理」の貫徹した世界で生きていかなければ、市場原理主義者ではないのである。つまり、ビジネスマシナリがなかったのが成功の要因だったともいえる。ビジネスは効率を追求し、無駄を嫌う。私は非効率と無駄を愛する。なぜならそこにこそ利益の源泉があるからである。そこにこそ創造の機会が眠っているからである。だから、私は教育の現場にビジネスの理論を持ち込むのは大嫌いだ。ビジネスマンが言うていることが全て正しいわけではないからだ。近年、アカデミックの世界の方々がビジネスの世界の方々に押されがちなことを危惧する。もちろん、ビジネスは教える。しかし、教育とビジネスは異なる。この点だけは混同しないように細心の注意を払っている。大学経営はビジネスだろうが、教育はビジネスではないからだ。このように考える人間が「会計ファイナンス学科」を担う人材として適切かどうかはわからない。しかし、実務家出身の教員とは本来そういうことをよく理解していないとならないのではないだろうか。私は徹底的に専門分野を教育するが、それだけで通用するほど世の中は甘くない。社会科学は人間を知ることが究極の目的である。このような教員のいる学科でどのような学生が育つか、是非とも楽しみにしてほしい。(やまだ たかし)



## 平成三〇年度 入学式を挙行

四月二日(月)、時三〇分からは人間社会創立者記念講堂で入学式を挙行了。午前一〇

間文化学部、国際学部、グローバルビジネス学部が式典を執り行った。金子朝子学長の式辞、坂東眞理子理事長・総長の告辞に続き、フランク・シユワルト学長

が登壇し祝辞を述べた。今年度の新入生は、大学院三六名、人間文化学部二三八名、国際学部三九名、グローバルビジネス学部一七八名、人間文化学部四二八名、生活科学部四五一名、編入学生九名であった。今年度からグローバルビジネス学科に会計ファイナンス学科がスタートし、総勢一六七九名の新入生が、昭和学園での新たな一歩を踏み出した。



右から、大須賀稔東京大学医学系研究科産婦人科学講座教授・安座間美優氏(モデル)女優・高木美智代厚生労働副大臣・坂東眞理子理事長・総長

## 厚生労働省「女性の健康週間イベント」を本学で開催

三月一日、オーロラホールにて女性の健康週間イベントが開催された。これは厚生労働省が毎年この時期に、女性が生涯を通じて健康で明るく、充実した日々を過ごすことを目的とし、一〇年前から行っている。



今回のイベントは、これから就職や育児などを控えている女子高生や女子大生といった若年女性に向けたものであり、この時期の特徴でもある「痩せ」に焦点が置かれていた。現在、若年女性のエネルギー摂取量は、

終戦直後より少ない状況である。痩せによって自身に起こりうる月経異常・骨密度低下などの健康問題はもちろんのこと、今の自分自身の健康状態が妊娠・出産時を通じて後に子どもにも影響を与えることを大須賀稔先生がお話ししてください。歳を重ねてから健康意識を持つのではなく、若い時期から女性が健康でい続けることの重要性を再認識した。(院科 藤本芽久美)

# 平成三〇年度 入学式 告辞

理事長・総長 坂東眞理子



二〇二〇年に創立一〇〇周年を迎える本校は、人間性を涵養する学寮研修、女性教養講座、文化研究講座などの伝統的な

プログラムを続けるとともに、21世紀の社会を支える人材を育成するために変革を続けている。社会のニーズに応える学部・学科を新設し、現代ビジネス研究所、社会人メンター制度、リエゾンセンターなどを作り、企業や地域との共同プロジェクトなど学生に多くの機会を提供している。

共学の大学との違いは昭和女子大学では知識やスキルを教えるだけでなくそれをどう活用し、自分と社会に役立てるかを

伝えていくこと。キャリア教育はその一環でそれが高い就職率に結びついている。

グローバルに通用する力をつけることも大事である。ポストンキャンパスは今年で三〇周年。テンプル大学ジャパン、上海交通大學など協定校もたくさんある。長短の海外研修、留学、ダブルディグリーなど様々な機会があるのでチャレンジしてほしい。

大学では自分で選択し、機会を活用することが大事。正解がなかったり正解が複数ある現実と向き合い、挫折を克服し最後までやり通す力を身につけて、実り多い大学生活を送ってほしい。

## 式辞

学長 金子朝子



人口知能が人間のパートナーとなる時代に、人がAIを使うには、人ならではの「創造力」が必要です。多様な見方や考え方に触れ、正解のない問

いに答えを導くために、思い込みではない「自分軸」を持ちましょう。先輩方はプロジェクト活動を通して未来に通じる創造力を養っています。現代ビジネス研究所や昭和リエゾンセンターで、企業・行政機関との協働プロジェクトや地域貢献・ボランティア活動など多彩な活動を行っています。本学独自の社会人メンター制度も活発で、そうした成果が、千名以上の卒業生を持つ女子大学で七年連続就職率トツ

プに繋がっています。ポストン校では、毎年五百名もの学生が広い視野とコミュニケーション力、他者尊重と自分への自信を育みます。海外留学、ダブル・ディグリー取得など、学びの場は世界に拡がり、テンプル大学ジャパンキャンパスも来年本学西キャンパスに移転します。グローバルな環境を大いに楽しみ、活用して下さい。社会を生き抜く力を持ち、未来への飛躍を実現できる若者が必要です。「創造力」とAIを活用する「自分軸」を持ち、日本や世界で貢献できる女性に成長することを期待しています。

## 入学の誓い (抜粋)

◆世良結菜(ビジネス)

私たちが新入生のために、このように素晴らしい入学式を挙げていただき、感謝します。伝統ある本学の一員として、愛と理解と調和に満ちた包容力豊かな女性となれるよう、学友と共に精進してまいります。

近年、日本ではグローバル化が進展し、また、女性が社会で活躍することが期待されています。二〇二〇年に開催される東京オリンピックに向け、今まで以上に視野を広げ、世界に目を向け、行動に移す力がますます必要とされています。そうした国際社会において、私達

は新たな道を開拓していくことが期待されています。

私はビジネスデザイン学科で英語習得のみならず、女性が社会で活躍するための学びを深め、グローバルな視野を身につけ、多様な価値観をもつ人々と積極的に交流したいと思っています。

本学にはグローバル人材を育成するプログラムが多数用意されています。こうした機会を積極的に活かして、周囲を明るく照らし、社会に貢献できる「世の光」となれるよう精進してまいります。本日よりそれぞれの未来に向かい、高い志をもって励むことを約束し、誓いの詞といたします。

## 歓迎の辞 (抜粋)

◆長嶋星奈(環境)

本学では、学園目標「世の光となろう」のもと、様々なカリキュラムやプロジェクト活動が豊富に用意されています。多方面で活躍する著名人をお招きする女性教養講座や、一流芸術家による文化研究講座を通して教養を深めることができま

す。また、年に一度、友人らと寝食を共にする学寮研修でも、多彩なプログラムが用意され、主体性や協調性、社交性を学ぶ機会ともなっています。さらに、ポストンキャンパスでの海外研修では、グローバルな視点を身に

つけることができるなど、他大学にはない、特徴がたくさんあります。

私が在籍する環境デザイン学科では、デザイン力やプレゼンテーション力を活かし社会で活躍することを目標に、自由な発想で意欲的に取り組む力を育てるカリキュラムが組まれています。実践的なプロジェクトも多く、愛媛県今治市大島で地元素材を用いた屋外空間を設計する取り組みを行っています。



三月一三日(火)、新キャンパス整備計画の地鎮祭が執り行われた。式には、坂東眞理子理事長・総長をはじめ、テンプル大学ジャパンキャンパス ブルース・ストロナク学長など大学や建



築・施工関係者約四〇名が列席し、工事の安全を祈念した。西キャンパス(仮称)の新校舎は、平成三二年七月末に完成の予定で、プ

ール等の体育施設を有するスポーツ棟と教室棟からなる地上六階、地下二階の建物となる。坂東眞理子理事長・総長は、「ブルース・ストロナク学長と語り合った「夢」がようやく現実の形となりはじめた。日本にいなからアメリカの高等教育を享受できるこのプロジェクトは、日本の大学では初の試みであり、日本の高等教育にもインパクトを与える取り組みである。皆様の協力をいただきながら、さらなるチャレンジを続けていきたい」と述べた。

## 行事予定

- 5月 1日(火) 創立記念式(10:45)
- 5月 2日(水) 創立記念日
- 5月 7日(月) 図書館情報検索ガイダンス(～6/29)  
学内推薦(大学院修士) 学生エントリー開始(～11日)
- 5月 8日(火) 【文研】ウィーン少年合唱団(18:15)
- 5月 9日(水) 避難訓練(12:00)(雨天の場合は16日に延期)  
【女教】安西祐一郎氏「未来に生きる皆さんへ:AI時代の生活と仕事」(15:30)  
第1回全学対象TOEIC IPテスト(4・5限)
- 5月10日(木) 【文研】落語鑑賞会(18:15)
- 5月15日(火) 第93回メンターフェア (12:00)
- 5月16日(水) 第1回就職ガイダンス (15:30)  
生活機構学専攻後期入学者論文中間発表会(16:00)
- 5月18日(金) 学内合同企業説明会(12:30)
- 5月19日(土) 大学院オープンキャンパス(13:00)
- 5月23日(水) 【女教】堺屋太一氏「『三度目の日本』はあなたたちがつくる」(15:30)
- 5月24日(木) 第94回メンターフェア (12:00)
- 5月26日(土) 学内推薦入学考査(大学院修士)  
第56回メンターカフェ「多様な働き方について聞こう」(13:30)
- 5月30日(水) 【女教】土井善晴氏「食事とは」(15:30)

## 西キャンパス(仮称)整備計画地鎮祭を挙

式には、坂東眞理子理事長・総長をはじめ、テンプル大学ジャパンキャンパス ブルース・ストロナク学長など大学や建

築・施工関係者約四〇名が列席し、工事の安全を祈念した。西キャンパス(仮称)の新校舎は、平成三二年七月末に完成の予定で、プ

# 女性健康科学研究所が第三回公開講座を開催

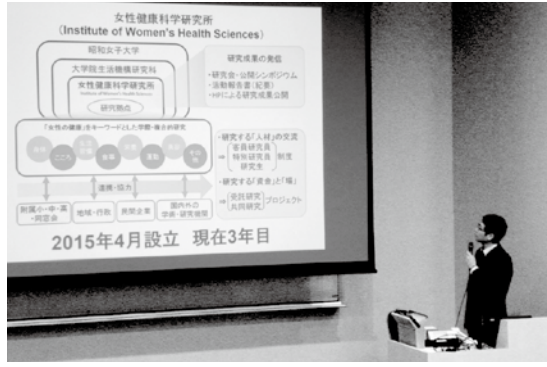
三月一二日に女性健康科学研究所の第三回公開講座が開催された。女性健康科学研究所では、所属する所員が女性

の健康に関連する様々な研究テーマを設定し、学術研究活動を推進している。その一環として年に一回、三月上旬に「女性の健康科学に関する諸問題」と題した公開講座を開催している。今年度は三名の所員が、食欲コントロールの問題（山中健太郎）

（渡辺陸行）、胎生期の栄養の問題（小西香苗）に関して、現状の問題点や進行中の研究をわかりやすく講演した。この公開講座を一つのきっかけとしてさらなる学術研究活動の推進に活かして欲しい。

また、この三月で研究所設立からの三年間、所長を務めていただいた江崎治先生が退職された。先生の栄養学の分野での長年のご研究と、研究所設立におけるご尽力に感謝したい。

（女性健康科学研究所 所長 山中健太郎）



## 昭和デザインオフィスプロジェクト発表でKFCJとの共同開発成果を発表

去る二月二四日、日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社(KFCJ)と健康デザイン学科のコラボレーション企画第三弾として、平成二八年九月から半年間商品開発を行ったことは既報の通りである。「和」ヘルシー「甘いもの」SNS映えというキーワードからコンセプトを決定し、顧客のニーズや店舗での作業手順も考慮し、こだわりの詰まった「たっぷり野菜のチキンラップ」

を発売。昨年五月三一日から六月二一日まで店舗限定で発売された。この取り組みの詳細を今回、発表させていただいた。こうした成果が、共同開発第四弾の企画へつながり、後輩に託せることを嬉しく思う。

このプロジェクト発表では、他学科の取り組み成果も発表され、それぞれの専門性を活かした活動内容は、大変興味深いものであった。こうした活動を通して、「売れる商品」や消費者トレンドを考慮する必要性や顧客ニーズを追究することの大切さを学ぶことができた。

（健康一九年度卒 松山睦



## 先生の研究室訪問 つながりを大切に

福祉社会学科専任講師

### 根本治代先生

今回は、社会学科の根本治代先生について紹介したい。先生は、知的障がいのある方のQOL(Quality of Life)の向上と、そうした方が主体的に職業を選択し、就労する「キャリア形成」の在り方について研究されている。先生は法政大学社会学



部社会学科の稲上毅先生(現東大名誉教授)のゼミで学ばれた。ゼミでは「競争と協調、連帯と排斥、支配と抵抗、同調と逸脱、忠誠と反逆」など、その行為の目的と手段の関連を人々がどう捉えるのか、その背景にどんな集団的規範が働くのかを、先輩も含め熱く議論された。また、家庭裁判所調査官の方の家

## 曾我の里プロジェクト活動報告

曾我の里プロジェクトは、「曾我物語」ゆかりの地、小田原市下曾我地区を盛り上げようと有志学生が集い、活動を続けている。主な活動は、曾我兄弟遺跡保存会と協働し、五月の傘焼きまつり、



八月の忍者の里風魔まつり、二月の梅まつりといった祭りへの参加や、本学で開催される子育てフェスタや秋桜祭での梅干しやみかんジュース等の特産品販売を通じてPR活動等である。活



動一年目は、下曾我の魅力はどう伝えるか試行錯誤しつつ、イメージキャラクターの作成、英文HP制作に挑戦した。活動中には困難なこともあったが、一から築く楽しさを感じた。何よりメンバーが積極性を身につけることができたと思う。様々な学科の学生が集まっていることから、幅広い提案や意見が寄せられ、新鮮な気持ちで取り組むことができた。小田原市役所の方々の支援をはじめ、たくさんの方々に支えられ活動していることを改めて感じるとともに、活動の一つひとつが貴重な経験となった。

（歴史 瀧谷珠里）

族社会学の講義に感銘を受け、地域社会全体で家族と社会の「つながり」を作る家庭裁判所調査官の仕事をしたこともあった。残念ながらも二次試験で落ちた。その後、公務員としての経験から、卒業後は公務員として障がいのある方の生活支援や相談ワーカーとして福祉の現場で一〇年のキャリアをお持ちである。

その後、そうしたソーシャルワーカーとしての実践を地域福祉の現場で活かそうと、公務員を退職され、福祉士としての国家資格取得を志し、通信制の養成学校で学ばれた。その二年間は、仕事や子育て、受験勉強と大変厳しい日々を過ごされたそう。資格取得後には、大学院の修士・博士課程に進まれ、障がいのある方のライフステージを見据えた支援を中心に研究されている。公務員と社会福祉士としての仕事により複数の視点をもったことが、本学での福祉分野の人材育成における強みとなっている。

私たちが福祉社会学科では、社会福祉士を目指す学生も多い。その社会福祉士が企業と企業、企業と個人との橋渡しの存在となり、社会で力を発揮するには、地域で暮らす障がいのある方々を知り、身近に感じるチャンスが大切であると根本先生は話す。「大学での学びには、キャリアを積み上げていくプロセスを通して気づくことが多くあります。現在の研究は大学時代の恩師稲上先生の研究テーマ労働CSRと関連しており、何十年かけて一巡りして大学時代の学びにたどり着いています。このような経験から福祉社会学科の学生には、四年間の学びを今後の永い人生の中で、多様な場面で引き出せるように、大事に育んでほしいと思います」と根本先生は話してくださった。

（学報委員 津志田千愛）

## クスノキ募金がスタート

学内に写真のようなボックスが置かれているのに、お気づきの方もいるだろう。この春から「クスノキ募金」がスタートした。同募金は、提供された書籍等(CD・DVD・ゲームソフト含む)の買取金額が学園に寄付



（昭和女子大学 サポーターズ・クラブ）

# 新入生歓迎 オリエンテーション 4月2日~10日

4月2日(月)の入学式から約1週間、大学への理解を深め4年間の学生生活を円滑に送ることができるよう新入生歓迎オリエンテーションを実施した。各種ガイダンスをはじめ、上級生懇談会やプレゼンテーション、学科主催夕食会など盛りだくさんの内容で親睦を深めた。6日(金)には、創立者記念講堂で学友会や秋桜祭実行委員会、クラブ連合委員会による「新入生歓迎フェスタ」も開催され各団体から新入生へ熱いメッセージを送った。  
新入生に感想と、学生生活への抱負を聞いた。



## 期待

暖かな春の光の中、慣れないスーツに身を包み、四月二日の入学式を迎え



た。つい先日まで高校生を送っていた私は、これから始まる新生活への期待と、授業についていけるだろうかという不安が入り混じった複雑な思いでいた。入学式直後から始まったオリエンテーション期間では、今までにない新鮮な経験がたくさんありました。五修生として入学した為、一つ上の先輩方と上手く馴染めるだろうかと不安で一杯だったが、すぐに溶け込むことができて安心した。ガイダンスでは一気にたくさんの情報

## 未来の自分探しへ出発!

暖かな春の陽射しがふりそそぐ四月二日、不安と期待を抱えながら入学



の日を迎えた。翌日から始まった一週間のオリエンテーションでは、先生方から丁寧なアドバイスをいただき、これから始まる学校生活への不安が自信に変わっていった。四月五日、学科主催の昼食会では、先輩方が用意してくださった美味しいお弁当を食べながら、学科や学寮、クラスアドバイザーの先生の紹介を聞いたり、班全員で工夫してケーキのデコレーションをしたりして、クラ

## 新入生歓迎フェスタを終えて

——新入生の皆さんへ——

四月六日、学友会執行部・秋桜祭実行委員会・クラブ連合委員会が主催する「新入生歓迎フェスタ」を創立者記念講堂で開催した。一時間二十五分にわたり、二十四の委員会・クラブ・サークルが活動内容を発表した。発表が一団体三分という短い時間ではあったが、各々の魅力を新入生に伝えることができた。新入生も拍手や歓声で大いに盛り上げてくれた。春休み中からの打ち合わせやリハールが成功に繋がったと思う。発表のあい間に団体からのプレゼントが当

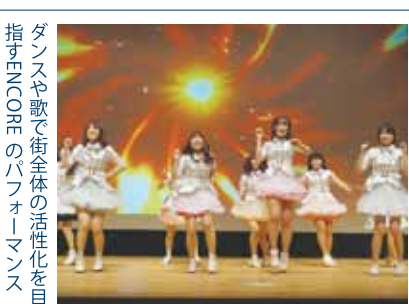
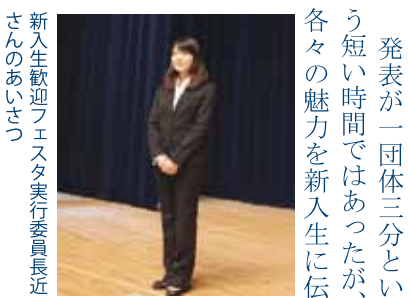
## 心地よい春の風が吹く

四月二日、これから始まる新しい生活への期待



と不安を胸に、昭和女子大学の入学式を迎えた。翌日から始まったオリエンテーション期間では、高校と大学の大きな違いに戸惑いつつも、先生方や先輩方のご指導により少しずつ慣れてきた。学科主催の夕食会では、食事を楽しまつつつ、先生方のお話や先輩方が作成してくださったスライドにより福祉社会学科への理解を深めることができた。まだ話したことがない人とも話すよい機会になり、とても有意義な時間を過ごせた。上級生主催の懇談会で

は、大学生活や履修などについての疑問に先輩方が親身になって答えてくださった。なかなかこういう機会はないため、今回いただいた知識や情報はとても貴重に感じた。知識は活かさなければ意味がないので、先輩方に教えていただいたことに感謝し、これからの大学生活に役立てていきたい。大学という場所は、卒業できるかどうか全て己の責任次第である。そのため、一つ一つの授業に高校以上の重みを感じた。資格取得のためにも、己を鼓舞し、目標に向かって日々邁進していきたい。(福祉 伊藤もも香)



新入生歓迎フェスタ実行委員長近さんのあいさつ  
ダンスや歌で街全体の活性化を目指すZENONのパフォーマンス  
千本校をポップにアレンジして演奏する生田流琴曲部